

～取組と成果を見える化！まちづくりの設計図～

令和6年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：「総合計画の進行管理の在り方」

研究代表者：岩手県立大学 杉谷和哉

課題提案者：盛岡市

研究メンバー：阿部智洋、秋田春菜、草刈大輔（盛岡市）

技術キーワード：総合計画、行政評価、指標

▼研究の概要（背景・目標）

盛岡市にて取り組んでいる新しい総合計画（2025-2034）の策定にあたり、「政策」－「施策」－「事業」の政策体系の組み換えや適切な指標設定を中心に、総合計画をより適切に進行管理できるような形に整理することにした。

▼研究の内容（方法・経過）

- ①研究チームが関連部局との折衝等を通じて得られた課題を抽出。
- ②研究代表者を取りまとめ、それぞれの課題等について助言を行う。
- ③助言を持ち帰り、担当課と再び折衝に当たる。上記手順を繰り返し行った。

▼研究の成果（結論・考察）

これまでの計画では、以下の課題があった。

- ・プログラム概念の未定着による政策評価の空回り（個別の事業の評価と施策全体の評価が連動していない）
 - ・事業評価が個別の数字によるマネジメントに終始しており、その事業が何のために必要なのか、政策体系の中でうまく位置づけられるものなのかといった視点を踏まえていない
- 以上の課題を解決するため、次のとおり見直しを行った。

- ①政策体系を全般的に見直し、新しい総合計画の下で運用される施策と事業の整理を行ったことにより、既存の施策や事業を新しい総合計画の中に位置付けつつ、そのマネジメントのための指標設定等に着手することができた。
- ②政策体系をきめ細やかにマネジメントするため、小施策ごとに設定する指標の達成度の平均値を施策達成度とすることとし、指標についてもアウトカム指標の考え方を基本とし、見直しを行った。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

2025年度からスタートする盛岡市の総合計画では、以上のような認識の下、既存の政策体系を可能な限り整理した上で運用に付すこととなった。

今後は、総合計画の節目で施策や事業の実態を評価し、政策に必要な新たな取り組みの提案や、施策や事業の改廃等についても引き続き、助言を行っていく方針である。

図1 新計画における体系図

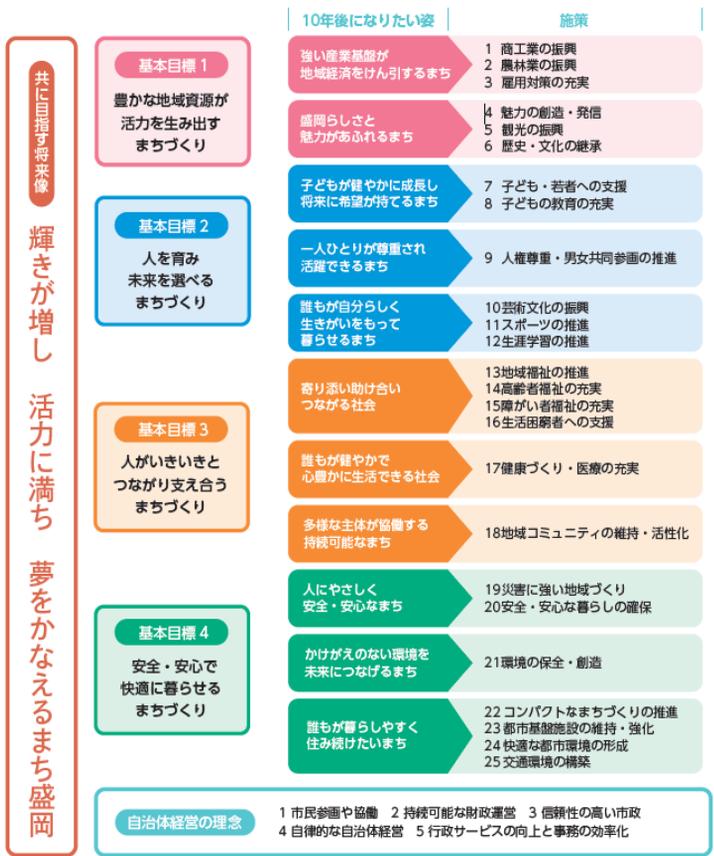


図2 指標の種類

【アウトカム指標】

施策や事業の実施によって発生する効果や成果を表す指標
(例) 交通事故件数、健康寿命

【アウトプット指標】

事業を実施した結果、数字や記述で表される状態のこと
(例) 歩道の整備率、健康教室の参加者数